

■木戸幸一 戦時体制下の天皇側近。東条内閣成立に関与し、終戦の聖断を演出。日記が<極東裁判>の証拠物件に。

きどこういち

帝国憲法発布1889= 東京で、_木戸孝允の養嗣子孝正の長男に生まれる。

日清戦争始・1894= 5歳：

子規句歌革新1898= 9歳：

日露戦争終・1905=16歳：

韓国反日暴動1907=18歳：

学習院を経て、

大逆事件判決1911=22歳：京都帝国大学法科大学政治学科に入学、

明治天皇没・1912=23歳：

21ヶ条要求・1915=26歳：卒業して、農商務省に入り、

民本主義・1916=27歳：

ロシア革命・1917=28歳：_父の死去で、侯爵を襲爵して貴族院議員となる。

原敬首相暗殺1921=32歳：

治安維持法・1925=36歳：商工省に転じたが、

海軍軍縮条約1930=41歳：*近衛文麿らの勧めで、辞して内大臣秘書官長に就任、以後天皇側近。

満州事変・1931=42歳：

_近衛文麿らとともに宮中政治家中の革新派を代表し、元老西園寺公望らの親英米的現状維持派とは意見を異にするが、

国際連盟脱退1933=44歳：宗秩寮総裁を兼任し、

帝人疑獄事件1934=45歳：

二二六事件・1936=47歳：_二・二六事件への対処に至る過程で、西園寺らの信任も得、宗秩寮総裁専任後、

日中戦争始・1937=48歳：*第1次近衛文麿内閣の文相、

健保+総動員 1938=49歳：_厚相、

第二次大戦始1939=50歳：_平沼騏一郎内閣の内相を歴任、近衛新党運動や新体制運動を推進するうち、

大政翼賛会・1940=51歳：*病気で辞任した湯浅倉平の後を受けて内大臣となり、元老西園寺にかわり、重臣会議の議にもとづき内大臣の責任で後継首相を奏請する方式を確立し、内府の権限を強化。

日米開戦・1941=52歳：_東条英機内閣を成立させ、太平洋戦争に突入するが、

創価学会検挙1943=54歳：

敗戦が濃厚になると、戦争終結工作を行い、

敗戦・・・1945=56歳：*天皇の「聖断」によるポツダム宣言受諾を実現した。A級戦犯として巣鴨プリズンに入所。

_1930 - 48年にわたる支配層の動向(特に宮中グループと軍部の抗争)などを克明に記録した「木戸幸一日記」を極東国際軍事裁判の証拠物件として提出、円滑な進捗に協力。

極東裁判決・1948=59歳：_極東国際軍事裁判で終身禁固刑に処せられ、

独立回復・・・1951=62歳：

メーデー事件・1952=63歳：

55年体制始・1955=66歳：_病気で仮釈放されて自由の身になったが、以後、表舞台にまったく出ずに、

安保闘争・・・1960=71歳：

タイタイ病始・1961=72歳：

大阪万博・・・1970=81歳：

JALハイジャック・1977=88歳：_没した。